

東京女子医大医療事故 麻酔科医6人を業務上過失致死容疑で書類送検

毎日新聞 2020年10月21日 15時25分 (最終更新 10月21日 18時25分)



東京女子医大病院 = 2002年6月撮影

東京女子医大病院（東京都新宿区）で2014年、首の手術後に鎮静剤「プロポフォール」を大量投与された男児（当時2歳）が死亡した事故で、警視庁捜査1課は21日、准教授だった男性（60）ら担当した麻酔科医6人が安全管理を怠ったことが原因だったとして、東京地検に業務上過失致死容疑で書類送検した。

書類送検されたのは集中治療室（ICU）の実質的な責任者だった元准教授のほか、38～45歳の男性麻酔科医。送検容疑は14年2月18～21日、同病院のICUで、首のリンパ管腫の手術を受けた後に経過観察中だった男児に対し、人工呼吸中の子どもには副作用の恐れがあるため「禁忌」とされているプロポフォールを継続投与し、容体の変化に適切な対応をせず、同21日に急性循環不全で死亡させたとしている。【土江洋範】

東京女子医大病院の男児死亡事故の経過

※外部有識者による調査報告書や遺族への取材などに基づく

【2014年2月18日】

午前9時35分 男児が首のリンパ管腫の手術を受ける。7分間で終了

午前10時半 ICUで装着した人工呼吸器が外れることを防ごうと、鎮静剤「プロポフォール」の投与開始

【19日】

午後3時半 初めて心電図に異常な波形が現れるが、気付かれず

午後11時6分 同様の波形が再び出現

【20日】

午前7時半 3度目の心電図異常に麻酔科医が初めて気付くが、午前中の超音波検査で心臓に異常なしと判断。以降、心電図異常は死亡まで継続

午後 腎臓小児科医が尿の変色に付き、麻酔科医に腎臓炎症の可能性を指摘

午後2時13分 心電図の別の波形に顕著な異常が出たが、麻酔科医は気付かず

【21日】

午前8時45分 首のむくみが取れて人工呼吸器を外せると判断し、プロポフォルの投与を中止

午後2時20分 容体が急変し心停止。蘇生措置を始める

午後7時59分 急性循環不全で男児が死亡

毎日新聞のニュースサイトに掲載の記事・写真・図表など無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。画像データは（株）フォーカスシステムズの電子透かし「acuagraphy」により著作権情報を確認できるようになっています。

Copyright THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.